

# 1・2年生国語科学習指導案

日 時 平成 17 年 12 月 14 日 (水) 第 4 校時  
場 所 秋神小学校 1・2 年生教室  
児 童 1 年生 6 名 (男子 2 名 女 4 名)  
2 年生 2 名 (男子 2 名)  
授業者 後藤 浩子

## 【1 年生】

### 1. 単元名

本とともにだちになろう 教材名 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

### 2. 単元の目標

主人公の様子や心情を想像しながら読み、物語を楽しむ。

今までに読んだ本を紹介し合って、読み合う。

### 3. 身に付けたい力

・易しい読み物に興味をもって読む。(読ア)

場面の様子や登場人物の行動などについて、想像を広げながら読む。(読ウ)

友達に紹介したい本を選んで、教科書に示された観点に沿って、紹介文を書く。(書ア)

今までに読んだ本の中から好きな本を友達に紹介する。(話・聞ア)

友達の本の紹介でいいなと思うところを聞く。(話・聞イ)

### 4. 単元(教材)について

これまで「おむすび ころりん」「大きな かぶ」「くじらぐも」などの教材により、物語の筋の展開をとらえたり、登場人物の心情や場面の様子を想像したりする学習に繰り返し取り組んできている。

この教材では、今までに培った読みの力を定着させるとともに、それを生かして、児童が主体的に教材を読み進め、読書の楽しさを体験し、読書に親しみを深めることができるようにすることを目標としている。

また、自分の好きな本を積極的に紹介し合うという活動は、読書意欲の喚起につながるため、紹介文を書かせたり、感想を発表させたりしながら、いろいろな本に興味をもち、読書の幅を広げられるようにしたい。

挿絵を活用することは、物語のあらすじを理解したり、物語のイメージをふくらますことができたりするので、目で物語を追うことができる。場面場面での心情の変化に気付いたり、言葉の理解の十分でない子どもには読み取るための支援となることが多い。その意味での活用を図りたい。

### 5. 児童について

1 年生は男子 2 名、女子 4 名で、自分の思いをはっきりと話したり、大きな声で音読をしたり、楽しんで動作化したりできる。

子どもたちは、ひらがな・かたかな・漢字と、使う文字が増え、進んで練習してどんどん覚えていっている。国語の時間は、毎回音読をとっても楽しみにしており、いろいろな方法で音読をしている。ただ、毎日の読書の傾向を見てみると、ある特定の子だけが読書量が多く、他の子は、それほど多くの読書量ではない。この作品を読み進めていく中で、物語の展開に興味を持ちながら、本を読むことの楽しさや面白さを感じ、自らが楽しむために読書しようとする態度を育てたい。

### 6. 評価基準

関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	話す・聞く能力
やさしい読み物に興味をもってよもうとしている。	場面の様子や登場人物の行動・心情などについて、イメージ豊かに読んでいる。	好きな本やおもしろかった本を友だちに紹介するために、紹介文を書いている。	・ 今までに読んだ本の中から、好きな本を友達に紹介している。 ・ 友達の本の紹介を、興味をもって聞いている。

## 【2年生】

### 1. 単元名

ようすを考えて読もう 教材名 「お手紙 / 何が どうした」

### 2. 単元の目標

「だれが・どうした」に気をつけて、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、声に出して読んだりし、二人の友情のお話を楽しむ。

主語と述語の役割と言い方を知り、気をつけて読んだり書いたりする。

### 3. 身につけさせたい力

場面の様子やがまくん、かえるくんの心情について、想像しながら読む（読ウ）

がまくんやかえるくんの気持ちがよく表れるように、語のまとまり、声の大きさなどに注意して読む。（読エ）

登場人物にあてて書く手紙であることを考えながら書く。（書ア）

主語と述語との関係に注意して読んだり書いたりする。（言エ（ア））

### 4. 単元について

「お手紙」は、少しわがままで自分勝手ながまくんと、相手に対してとても優しく声をかけてあげられるかえるくんとの友情関係のお話である。この二人の心温まるやりとりや、かたつむりくんの一生懸命な姿が、子どもたちには素直にその心を感じ取れるようになっている。また、「すぐやるぜ」「くれなかったんだぜ」などの児童の心をくすぐる言い回しも楽しめるものである。

今までの学習の中で、動作化や劇化で場面の様子を想像しながら読む学習をしてきた。ここでは、音読を中心に活動させ、会話が多いこの作品の特徴を生かして、場面の様子や登場人物の気持ちを楽しく想像させたい。

会話文が多いことから、音読や動作化する活動を通して読み進める中で、想像力を働かせながらも、登場人物のだれが言った言葉なのか、どんな気持ちで話しているのか考えさせることで、登場人物の気持ちの移り変わりなどを感じ取らせていきたい。

### 5. 児童について

2年生は男子2名である。自分の思いをはっきりと話したり、大きな声で音読をしたり、楽しんで動作化したりできる子たちである。学習の課題がはっきりとわかり、見通しがもてたときは、楽しみながら授業に取り組むことができる。また、興味のある事柄に対しては、満足できるまでとことん追究しなければ気がすまないという二人である。この教材では、がまくんとかえるくんの様子や心情を想像し、音読したり、動作化したりすることでそれに迫るものであるが、2年生二人にとっては苦手とするところであり、学習から大きく逸脱してしまうこともありうる。

そこで、1時間の学習の流れをつかみやすいように板書を工夫したり、課題からそれないように助言したりしていきたい。

### 6. 評価基準

関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
登場人物の特徴をつかみ、楽しく音読しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"><li>それぞれの場面の様子をとらえ、会話文からがまくんやかえるくんの気持ちを想像して読んでいる。</li><li>がまくんやかえるくんの気持ちが表れるように、読み方を考えて音読している。</li></ul>	今までの学習を振り返りながら、登場人物にあてて、思ったことを手紙に書いている。	主語と述語の関係を知り、気をつけて読んだり書いたりしている。

## 7. 研究との関わり

### 研究内容 1

#### 複式の特性を生かした単位時間の指導の工夫

- (1) 学習の進め方を掲示する。
- (2) 話形指導をしておく。また、掲示もする。
- (3) 教具や資料の工夫  
計画表を掲示し、その計画に沿って課題を解決していけるよう指導・援助していきたい。(計画表は、前時までの流れがわかるようなものにする。)  
様子や心情を把握しやすいように、挿絵を準備し、興味関心を高める。役割読み、動作化などを取り入れる。  
本文の拡大コピーやワークシートを準備し、発表したり、学習の足跡の確認をしたりするのに利用したい。

### 研究内容 2

#### 一人ひとりに付けたい力を明確にした指導・援助、評価の工夫

- (1) ワークシートの利用  
個々の考え方や、進み具合を確認し、支援の方法を明らかにするために用いたい。また、ワークシートに書き込むことで、子どもたちも学習の見通しが立てやすく、一人読みの目当てもつかみやすいと考える。
- (2) 個人カルテの利用
  - ・ 毎時間の一人ひとりの観察記録(机列表)から、その子に対する手立てを見出し、指導・援助していく。
  - ・ 子どもたちの変容を記録し、手立てが有効であったか振り返る材料とする。
- (3) 自己評価  
単位時間の学習の振り返りに有効であり、自分の学習の歩みが見える。また、次時への意欲付けともなる。